京城新報

●新聞料　▲一部二錢▲一ヶ月前金卅五錢●三ヶ月前金貳圓▲六ヶ月前金▲郵稅一ヶ月金拾壹錢
●廣告料　▲五號活字十九字詰一行金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆　二月廿九日
發行編輯兼印刷人　山下
京城西署西小門通
發行所　京城新報社　電話六六三番

韓國に働きたる人物　其四

（故星亭）　放浪子

▲怪傑星亨も井上馨の幕僚として、韓國法部顧問たる時代は、所謂大飛躍せんが爲に暫く翼を休めたる觀ありき、▲世人は渠が橫濱稅關長時代に、日本の廟堂を常に狼狽せしめた、英國公使パークスを罵倒し、さしも傲岸なるパークスも避易した辣手を追想して、漢城政界に花々しき活動を試らるべしと期待したりき、何ぞ圖らむ、渠は沈默不動殆ど韓國に靜養する爲に來りし觀ありき、▲惟ふに井上馨の幕僚として漢城に働くには其人格餘りに大なりき、却て小手先の利く仁尾惟茂や、齊藤修一郎の方が適當なりき、▲渠が短き漢城の生活に於て見るべきものは、時々公使館に出入することゝ、齊藤修一郎の家で象碁を闘せることとなりき、其碁も余り上手にあらざるも、活潑の指し振りは矢張星亨的なりき、▲要するに星亨が沈默して何事もなさゞりしは、幕僚として働くは渠の長所にあらざりしならむ、渠は何處も頭領として子分の獻策を入れて陣頭に起て活動するが長所なり、それを井上の如き喧まし屋の幕僚となる、其光彩を發揮せざる無理ならざりき、▲渠は能く自分の長所を知る、見よ渠が米國に公使たるや館內深く潜で讀書に耽りたりと、公使の如きは彼の長所にあらず、渠は尤も政黨主領に適せりき、後年渠が日本に於ける偉大なる人物となりしは、政黨主領として怪腕を揮ひしに因る、當時の渠は反對黨に對する、鎧袖一度觸るれば微塵たるの慨ありき、▲渠は韓國に靜養したる時に於ても、其親分的氣象は發輝せられたりき、一見傲慢なるが如き渠の僑居は常に訪客多かりき、親しく渠に接したるものは、彼の傲慢らしき顏は變じて柔和となり、其破顏一笑するや目元に愛嬌あり、何となく人を引付るの力ありき、敵として大に恐るべきもの、味方としては最も賴みとするに足る、▲渠が在韓中政治上の論議を試られたるは恐らく王妃事件の時の外多くなからむ、渠は彼擧を以て下手芝居なりと評せりき、▲渠は幕僚として韓國に來りて、何事をもなし得ざるを知りつゝ何故に來りしかと云ふ者あり、そは渠と井上との關係を知らざるに因る、渠は井上に恩を受く、之に加るに恩人陸奥宗光の勸誘あり、之れ渠が餘儀なく來りし所以也、▲若し渠に今日の統監の如き權力を與れば目覺しき働をなしたるならむ、時勢非にして英雄故星亭は追慕せらる、

韓國濟經月報（續）

第一　貨物の集散

當十月中各地方に於ける貨物集散の狀況左の如し

一、●京城●　開城●

京城●　冬季に向ひたると地方の暴徒稍々鎭靜に歸したるとにより冬物の賣行は活氣を示し且つ收穫期なるを以て蕎麥、大豆の出廻り多少ありたり

開城●　米穀は地方騷擾の爲め出廻り捗々しからず從て市價は昂騰せり、輸入品は季節柄好況にして約五萬圓に達し就中上海綿は數百個の入荷あり綿絲、綿布、雜貨類之れに次げり地方への再輸出は暴徒各所に出沒せしと、一方農繁期なるとに依り中旬頃迄は非常の不況なりしが下旬に至り稍々賣行好況にして當用品のみにても約三萬圓に上れり

二、●海州●　安州●　江界●

海州●　地方暴徒の爲め穀類の出廻り少なく從つて其の取引不活潑なり、木綿、石油等の商品は賣行良好にして之れを前月に比すれば稍々活氣の呈せり

安州●　前月來沈靜なりし商況は當月に至り稍々活氣を呈せり

江界●　當月初旬に至り安東縣方面より種々貨物の入荷あり之れを七八乃至九月に比すれば幾分の活氣を示せり

義州●　目下農民は收穫を總へ市場に出荷するもの多く市況活潑なり

三、●春川●　忠州●　公州●　筏橋浦●　濟州島●　榮山浦●　海南●　木浦●　晉州●

春川●　當月に至り暴徒稍々平穩に歸せんとする模樣なるに依り避難民等追々歸來し殊に秋作豐かなりしかば前月に比し人氣大に恢復せり然れども未だ全く常態に復せざるを以て當地特產物たる木材、薪炭の外少量なる細布の販賣あるのみ

忠州●　地方暴徒は前月已來少しく沈靜に歸したる市場稍々活氣を示したるも一般商人は貨物輸入の途絕へて久しく、殆んど持越の品のみにて花客の需要滿す事能はざりしに中旬再び近傍に出沒し剩さへ市場來襲の風說起りしかば少しく恢復せし市場再び沈靜となれり

公州●　當月上旬は市況沈靜を極めたりしが中旬頃に至り漸次活氣を呈し葉煙草、明太魚、米、麥、大豆、小豆、其他白苧、棗、柿等市毎に增加せり

筏橋浦●　當月は農繁季なるを以て出市貨物減少し殊に下旬に至り明太魚の如きは殆んど出市を絕つに至れり、麵子は酒造季節に至れるを以て可なりの出荷ありたり（未完）

延安地方貿易概況（續）

（仁川稅關調）

外國品

品名	數量	賣價
金巾	一反四十碼（三ビー印）	六、二〇〇
酒金巾	一反四十碼	七、〇〇〇
紡績糸	一包十六手	三、三〇〇
同縫糸	一包三十二入	四、五〇〇
マッチ	一包十入	〇二五
ハーロー	一個	〇三五
砂糖	一斤（白）	一五〇
石油	一箱（錨印）	三、五〇〇
洋蠟	一打	三〇〇
支那鹽	五升（韓一斗）	一二五

一、貨物の運搬及交通●●●●●

延安郡一帶及白川郡西南の一部は延安を去る南方一里餘の羅津浦を以て貨物移出入唯一の咽喉とし郡內海濱に面せる個所多きも延安の如く物貨の集散する場所なく且つ潮流滿干の差著しく羅津浦に次ぐ場所なし然りと雖も羅津浦も村落に到るには漢口より二里以上灣曲したる河川に因り滿潮に上り干潮に下る等潮流を利用し且つ大潮時にあらざれば到達すると能はざる等頗る不便の個所たり海上交通の不便なると以て知るべきのみ以上述べたる移出入貨物は凡て朝鮮固有の帆船及韓人所有の日本形帆船に據り此の如き交通不便の河川に潮流を利用して一旦羅津浦に陸揚せられ牛馬背に依り運搬せられ又た郡內一帶及白川郡西南部面の物產に牛馬背を借りて羅津浦を經て仁川に輸送せらる其輸送途中は南大江を經て漢江に入り江華島を廻るを以て風向及潮流良好の際は羅津浦を發して二日目に仁川に入港するを得るも平素四五日を要し延着の場合は十數日を費すのみならず每年輸送船數隻漢口及南大江の砂礁に於て破船し貨主の損害を蒙るもの少からず僅に吃水五尺の小蒸汽船さへも潮流に依らざれば漢江及南大江を自由に航行すると能はざるを以て到底積量の大なる汽船を以て輸送の便を計らんとするも之れ全く不可能に屬す小蒸汽船（六節半）を以て漲潮に向へば仁川羅津浦港口間は僅かに五時間にして到達す故に將來交通の便を計らんには第一漢口及南大江に於ける砂礁を絕へず測量し標識を設け十噸乃至二十噸內外の小蒸汽船を以て艀船の曳船をなし輸送するを最も可とす交通は海州へ陸路十二里京義線土城へ陸路八里あり現時仁川より延安郡及白川郡旅行者に對しては仁川海州間航行の汽船江華島折串へ寄港下船せしむるを以て同地より海上艀船にて白川郡星湖に上陸同地より陸行しつゝあり交通の不便實に歎すべきなり星湖より延安迄陸路四里あり

一、●製鹽場及製鹽高●●●

延安郡內の製鹽場七濱にして韓人の經營に係る昨年中の製鹽高三萬九千斤にして採鹽の地名左の如し

採鹽地名	鹽田の面積（步）	製鹽場個數（個）	鹽井數（個）	鹽釜數（個）	一ケ年製鹽高（斤）
松青面五	二、七〇〇	一	二	一	七、五〇〇
里弓矢洞	二、八〇〇	一	二	一	七、五〇〇
同檢倉面五	二、七〇〇	一	二	一	七、〇〇〇
里內野洞	三、一〇〇	一	三	一	一〇、〇〇〇
同三里洞	二、六〇〇	一	四	一	九、〇〇〇
同檢湖上	二、四〇〇	一	三	一	一〇、〇〇〇
同義面五里典塘洞	二、九〇〇	一	四	一	八、〇〇〇
合計	三、九〇〇	七	[illegible]	七	五九、〇〇〇

一、●支那鹽の輸入と韓鹽業●●●●●

延安附近の製鹽業は頗る有望の業たり然れども支那鹽の密輸入せらるゝもの近時多きを加へ市場の相場は韓鹽一斗（韓桝）十七錢に對し支那鹽壹斗十二錢五厘にして到底支那鹽に匹敵すること能はざるを以て製鹽場二三は停業の止を得ざるに至れり夫れと同時に日本商人の蒙る影響は大小豆、小麥等支那鹽の密輸入者が時日を惜まずして小許宛物々交換して輸出するを以て如何なる商計を廻らすも支那奸商に相對抗するを得ざる有樣なり

一、●延安居住の日本人及支那人●●●●●

延安居住の日本人は五戶十八名にして雜貨商の小規模なる營業に過ぎず支那人の居住するもの五戶四十余名之又雜貨商にして其內二十余名は市場廻りを營業するものあり是等一戶の賣上年額平均一千圓を降らず

●附錄●　參考の爲め仁川延安間の運賃を擧ぐれば左の如し

品名	個數	仁川羅津浦間（圓）	羅津浦延安間（圓）
米	一俵（五斗入）	一四〇	一〇〇
大豆	一俵（五斗入）	一四〇	一〇〇
金巾	一個（五十疋入）	一五〇	一五〇
紡績糸	一個	一五〇	一五〇
石油	一箱	〇七五	〇六〇
繩叭	一梱	一〇〇	〇八〇
雜貨	一個	一〇〇	一〇〇

●ステッセル裁判（三）

▲檢事の論告●

高等軍事裁判は一月二十九日を以て審問を終結し、二月四日より辯論に移りしが檢事は先づ論告して曰く、

「ステッセル將軍は旅順を墳墓の地と斷言しながら何の面目ありて要塞を開城したるぞ。彼は何が爲に勇敢なる防禦を以て全世界を驚かしたる名譽ある要塞兵に強ゆるに降參の恥辱を以てしたるぞ。本檢事はステッセル、フォーク、レイスの三將軍が職務に對する義務の觀念と克己の精神とを缺ぎしを斷言す、彼等は實に祖國に對する義務を知らず、歷史に對する面目を辨へざる者なり。歷史は吾人に示すに、古來の英雄が如何に斯る場合に處したるかを以てするにあらずや」。

と述べ、ゼノア、ブレウナ、キンプルン等の例を引きて、暗にステッセルが自殺の勇氣なかりしことを諷し、被告各自の罪に論及して●フォーク將軍の罪は防禦の方法を十分に盡さず、敵を未だ銃劍を交へざるに早くステッセルより退却の命を得んが爲に、事實を僞りて陣地の危急、彈藥の全滅を打電したるにありと述べ、次にステッセルの罪に移りて、彼はクロパトキン將軍より要塞の指揮をスミルノフに讓れとの命令ありしにも拘はらず、之を實行せざりしと言ひ且此の點に於ては兩者に罪ありと述べ、更にレイスの罪に及びて曰く、

「開城談判使節の派遣は大獅子窩の陷落以前に在りたり、假令此の點に於て爭ふべき所ありとするも乃木將軍の書簡（開城勸告）が大獅子窩の陷落前に送られしことは疑ふ可からざる事實なり。十二月二十日（一月二日）の朝乃木將軍よりの返書に接してステッセル將軍は談判の全權をレイス將軍に委ね他の委員には何等の指令も與へざりき。全權委員等は皆フォーク將軍の營舍より水師營に向つて出發したり。フォーク將軍は此の事實を否定すと雖も、證人の證言は彼れの陳述に反對せり。水師營に於て開城條件の詮議に費されし時間は四十五分間なりき。此の時間の餘りに僅少なりしは、開城の事は既に其の以前に解決せられありしを以てなりレイス將軍は此の時間の短少に對して別に反對せざりき。又ヨリ多く名譽の條件を獲得せんとの願望も無かりき。此の事はレイスが其の當時ゴロワン大尉の抗議に對して『我等何をか爲さんや、彼等は戰勝者なればなり』と言ひし言葉に徴しても明かなり」。

●東洋拓殖の利益

東洋拓殖會社營業の收入は初年度分田地六萬圓二千五百町步の內一町步二十圓宛及び借入地五百町步の收入用水三萬圓二千五百町步一町步十圓宛及借入地五百町步の收入以上合計九萬圓二年度分田入萬一千圓籾其他の收穫一町步二十七圓宛二千町步用水三萬六千圓大豆及び小麥一町十二圓宛三千町步未開墾地六萬三千內大麥一千五百町步以上合計十八萬圓なり而して牧畜及び漁業は農業の副業とし又漁業者には別に移住費の支給を爲さゞるべしと云ふ

小說　紱のみだれ（百六）

永井櫻國

「イヤ、早速承知して下すつて、私も口の利き効があつて滿足します。斯う事が極つた上は、善は急げの諺もあり升から今晚にも早速婚禮の式を濟して、その上で明日にも商業の資本は出させますから、必ず心配御無用です。又月々の手當も間違なく送らせますから安心して下さい、イヤれ邪魔を爲ました、一刻も早く歸つて安心爲せませう。」

起たんとするを、

「些と待て下さい、苟にも自分の相續人を嫁に遣つて了うのですから、謂はゞ盲目が杖を取られたも同じ事です。極めるだけの事は今日固く極めて置かないと、後日になつて左や右く云ふのは、お互に氣地宜くないものです、致しますと、商賣の資本は婚禮の式が濟み次第に渡して下れるやうにお取計が願ひたうございます、して又月々の手當も毎月二十五日に渡して下れますやうにれ取極を願ひますそれから又萬一私が病氣なんか、不時の災難でも有つた節には能るだけの事は爲て下れますやうに、これは私から特別にれ願ひ申して置きます。」

松岡は微笑を湛ね、

「病氣や不時の災難でもあつた節は、他人でも助け合うのですもの、況してや親子です、決して御心配には及びません、私から能く話して置きます、それから商賣の資本はれ辭通り婚禮の式が濟むとれ渡しますし月々の手當も二十五日に渡すやうに話して置きます。」

「若も月々の手當を下れないやうな事になりますと、私は食べずに居なきやあならない事になりますから、その時は娘を連れて歸つて又寄席にでも出さなきやあなりませんゆゑ、その邊も能く山田へれ話しなすつて置て下さい。」

「宜しい、萬事承知しました、それでは歸つて委細の相談した上で、重て伺う事に致します。」

と、挨拶して歸つて往つた、と、間もなく淸糸が、大川の代理と言ふ四十格好な男と同道して來て、緣談を大川に斷つた事、その結果として資本にと貸與へた三百圓の金子の代りに、店に陳列べてある物品を殘らず受取るべきため、此人を同

らずその人に渡して、茲に大川との關係は一段落となつた。」

勇五郎はそれより淸糸に事の成行を洋しく語つて、

「然う言ふやうな事に極めて了ひましたから、いづれ彼女が伺つて種々御相談は爲るでせうが、設令山田の家へ遣りましても、これまで通り何彼の御面倒を、宜しくれ願ひ申します。」

淸糸は內心不滿に堪ねられぬけれど、さあらぬ體で、

兒まで出來ては爲方がありませんわね、

「まあ／＼無事に納つてれ目出度うございます。」

と、挨拶さへも匆々に立歸つて了つた、淸之助は、その日限り斷然廢業して、その翌日婚禮の式を擧げて、書家山田幾堂の夫人とはなつたのである、新婦新郎が結婚後の夢や如何ならん、

(二)　(第三種郵便物認可)　明治四十一年三月卅一日　京城新報　(火曜日)　第百十四號

▲故スチーブンス氏

故スチーブンス氏は遂に落命被致候日韓問題の犧牲として落命致候余は衷心より同氏の變死を悲しみ謹みて弔意を表する者に御座候

▲人友の爲に命を捨つ此より大なる愛はなしとユダヤの聖者は被申候余を以てすればス氏の死は帝國及伊藤公に對して氏が有せし深大なる愛の表白と解釋すべきものと被存候

▲悲報一度傳はるや全世界は大に驚愕したる者の如くに御座候其驚愕の程度は葡王の變死以上なるべく彼等韓人が米國を舞臺として著名の米人を暗殺するが如き大膽なる兇行を敢てすべしとは何人も曾て想像にだにせしこと有之間敷此事ありて世界驚愕の程度を倍加したる次第と被察候

▲由來表面大膽なるが如く見ねて實は非常に臆病なる事を爲すは韓人の特性に候曾て布哇に尹致昊なるものありポートマス媾和會議の折彼米大統領を動かして朝鮮の獨立を計らんとし孤身ワシントンに出掛て運動を試みたる事有之候其運動は何等効を奏せざりしも是によりて彼は僅かに愛國者たるの美名を贏得致候

△次に三十九年九月の頃江原道の儒生某等は統監殺害の目的を以て入城し伊藤公に暗殺狀を送付したる事有之候爲に統監邸は急に警務を厳にし一時上下へと噪ぎたる事有之候其儒生の所爲たる乃は自然に收まりて終り候次はヘーグの密使にて彼等は韓國の美名を贏得ずし[illegible]使なれども幵は玆に說くを要せざることゝ存候

△尹侍從や皆口舌の徒に候而れどもス氏の暗殺者は僅に一命を賭して掛たる者に有之候何如に[illegible]都とは云へ一命を賭すべく此暗殺は其難事を敢てしたるが世界の耳目を惹きし理由と被存候

▲ス氏暗殺に對する世界の反響は余の未だ知る能はざる所に候得共余の見を以てすればヘーグ事件以來漸く世界の人の忘れんとせる韓國問題が或意味に於て復活せしやと掛念致候

▲物は見樣によりて如何樣にも相成可申候韓國問題の復活は我伊藤統監をして其朦朧政策を維持する能はざるに到らしむるやも知れずと被存候余は伊藤公が從來の朦朧主義より鮮明主義に移るの時機稍かに切迫したるを相信じ申候

▲ス氏の對韓意見は雄大にして亦明白なると共に候氏が朦朧政策を厭たりしは事實に候東洋の政治家は餘りに悠長なりとは氏が不用意の折敷々口より洩したるところに御座候

△世間一般はス氏を目するに單に日本贔負として批判する傾有之候へども幵は大なる誤に有之候今は說くを憚り候得共他日を以て明瞭と相成可申候

△雄志を抱きたるス氏は對韓問題最後の解決を見ずして犧牲となり祭壇に登られ候氏今生の無念は余の苦察致すところに御座候余は此高貴なる犧牲をして眞の意味ある犧牲たらしめられんことを伊藤統監に向て要望致候

葬禮雜觀

長風生

△本月廿九日南山本願寺別院に於て片淵君の葬儀を營むことゝなり、余は其世話係の一人として參列した、會葬したるものは雜然たる有志者の一團で、君の交友系統が正しく多方面で又浪人生活を爲したるかを代表せられてあつた。

△君其東亞開進敎育會に盡くしたる處多かりしを以て、會長趙重應君は弔文を寄せ又會員三千を參列せしむべしとの申込があつた、會葬者は斯く冷笑した、恐らく其一割も來ることはあるまい、三千の會員來會とあれば是異に暴徒襲來の感があると。

△此日は天氣荒敗雲行急激砂飛揚し漢城市一面恰かも塵砂風雨の間に埋沒するの光景であつた、如何に低氣壓の襲來が壯大なる本願寺をして鳴動せしめて居る、第一點鐘が鳴る、讀經始らんとして一群の韓人先づ旗を押し立て〻山門に迫り來た、續いて幾團の韓人は疾走して詰めかけ押しかけ、大鼓を鳴らし笛を吹き、踊兒舞兒は狂氣の如く舞踏しつ〻山門內に進入した、其時の光景は實に一大奇觀で又一大壯觀である、讀經どころか會葬者も皆總立となつて此光景に觀殺せられ、興殺せられ、威殺せられた。

△或者は曰く眞に三千の暴徒襲來の光景とも謂ふべしである、或者は曰く恐らく斯る群集の崇拜によりて葬られしもの錦浦先生一人である、或者は曰く朝鮮人と云ふ人間は當てにはならぬが又當てにならぬ一大氣力も持つて居る。

△讀經は始まる、會葬者も見物より座に就いた、然し乍ら光景は鐘鼓舞踏群集の波瀾中にありて異樣の光景と了し去つた、伊東祐侃君が朋友を代表して弔辭を朗讀し、楢崎君が趙會長の弔文を代讀した、韓人の代表者は謹んで燒香をなし、一同は三十分にして解散することゝなつた、折りしも暴風殺到し、群集と見物人は本願寺の廣庭に充滿して居る、風が吹く、砂が飛ぶ、雷鳴り電光閃き、大雨沛然として降り、玆に群集の解散を命じた。

△韓人は其れでも承知しない、彼等は寺院內に侵入して狂亂の如く舞踏しつゝある。

△或者曰く奇怪なる群集である、恐らく彼等は統監府の脚下に於て片淵君を借りて示威運動をやる積りであらう、傍に大垣君が居つたから余は曰く君が死んだなら斯く韓人が來會するであらうと。

△余は片淵君の喪主の一人として此奇異なる葬儀を擧げたりしを自ら了解するを得た韓人は文學の民である。

紐育電報

▲ス氏暗殺者の公判　スチーブンス氏を暗殺したる韓國人は公式に起訴せられ辯護士は韓國人の所爲を以て愛國的狂亂に基ける無知覺的犯罪なりと說きて辯護せり(二十九日發)

東京電報

▲祭粢料御下賜　故岩崎彌之助男生前航海業の發展に盡瘁せし功勞に依り祭粢料として金五百圓を下賜相成りたり

▲間嶋派出所官制　統監府は別に間島派出所官制を制定し公の機關として事務の敏活を圖り韓民保護の實を擧ぐる筈なり(以上二十九日發)

各地電報

▲賊三十と戰ふ　日韓巡査各二名海州郡泳東面泳亭に於て約三十名の暴徒と交戰し之れを擊退し其の二名を斃にし四名を殪す鹵獲品銃二挺なり(廿九日海州發)

▲暴徒郡邑を襲ふ　暴徒約二十名山淸郡邑に來襲し巡査駐在所及び郡主事宅を燒毀せりとの報あり當地警察署より警部巡査出張す(廿八日晉州發)

▲右續報　本月廿七日夜賊八名山淸郡大源寺方面より德山附近に來り尙其の幾部は太源寺附近に在り昨廿八日午後一時丹城郡方骨面に賊約八十名侵入し喫食後郡邑を襲擊せんと揚言しつゝありとの情報あり當地守備隊は下士以下七名德山に上等兵以下六名方骨面に上等兵以下三名三個に向ひ包圍攻擊する筈なり(廿九日晉州發)

▲首魁を生擒す　昨二十九日巡査隊は今村中尉指揮の下に守備隊と連合し光州郡所旨面に集團中なりし暴徒を攻擊し其の五名を殪し首魁金聿を生擒す(三十日光州發)記者曰く金聿は全羅南道暴徒の總首魁なり

雜報

●長谷川大將の御見舞　長谷川大將は副官を隨へ廿八日午後〇時四十五分馬車にて大漢門より參內あり承寧府に至りて同總管に面會し承れば陛下には御病氣の由目下御容体如何あらんと陳べられたるに總管は御快方に赴きつゝありと答へたるに御見舞の爲めに參上したるに付宜敷御執奏ありたしと名刺を交へて直に退出せられたり

●救恤金下賜說　太皇帝には今回の地方騷擾事件に於ける被害者に對し救恤金を下賜せらるゝと云ふ

●殖產獎勵會の總會　大韓殖產獎勵會にては去る廿七日中部校洞同會事務所に於て總會を開きしが同 の目的は國民を獎勵し殖產上の注意を喚起し生產力の增進國家の富强を企圖し自立の基礎を作成するにありて其綱領とも稱すべきもの左の如しと云ふ

一國法の軌道に由りて行動し公私の權限を明白にし民有財產を擁護し自他の侵害を防止す

一國民の付托を容れ宮內府及國有の土地鑛山、山林其他殖產關係の事件を請願代理處辦す

一內外物品の有無を疏通し需要供給の便を開く

一政治、經濟、法律其他學藝に關する事項の諮問に應答し會員の疑義を闡明す

一學校を設けて殖產上の智識を開發せしめ豫て獨立經營の氣風を養成す

尙同會役員既記候補者に付選定及分課等左の如し

△總裁李載克　△副總裁李道宰
△會長閔泳綺　△副會長李圭完
△顧問高橋章之助　△顧問大垣丈夫
△監督服部健之助　△總務趙興夏
△副總務柳翼元　△庶務課長南順吉
△會計課長金命煥　△支部課長尹贊
△學務課長趙忠夏　△編輯課長權丙壽
△農務課長柳錫用　△林務課長朴鏞夏
△工務課長韓成奎　△商務課長申泰根
△園藝課長申斗熙

●ス氏追吊會に就て　故スチーブンス氏追吊會に就て官民間に內議あることは既報の如くなるが聞くところによればス氏の葬式が桑港に於て執行せらるゝや將ワシントンに於て行はるべきやは未だ決定せざるを以て其日時さへ未だ明かならず仍て在當地故ス氏關係者諸氏は葬式日の發表せらるゝを俟つて其當日官民內外合同を以て盛大なる追吊會を擧行する心組なりと云ふ

●受賜金韓人の不明　三十七八年戰役の際韓人にして我軍隊又は鐵道監部等に從軍し今回行賞に依り下賜ありたるものゝ中左記十名は其住所不明なるを以て之れが交付をなす能はず今日まで理事廳に保管しあれば心當りの者は速かに京城理事廳に申出づべきものなり

尹三萬　朴正善　李錫訓　李般德
林喜英　李春化　崔仁九　白必先
金一浩　金永達

●暴徒討伐情報(軍司令部着)

△永同守備隊報告　討伐隊は三月二十五日午前十時三十分忠淸北道三公里(茂興場東南方約二里)に於て金東臣の率ふる約六十の賊と遭遇し交戰二時間の後之を慶尙北道及九千洞方面に潰亂せしむ賊の死八傷五韓銃五雜囊三鹵獲す

△銃器押收　江原道原州守備隊の斥候は法周里に於て暴徒首魁金致永の依賴に應じ隱匿せる單銃五火繩七劍一押收せり

△水原守備隊報告　討伐隊は二十三日安仲場(水原南八里)の東北約雲村附近にて約十名の賊を西北方に潰亂せしめ其一を殪す

△騎兵隊報告　騎兵討伐隊は二十一日龍潭(群山東十三里)にて賊二名を殪し同二十三日開花洞に於て賊一名を殪せり

●銃器押收　二十三日廣州駐在所より送致せる暴徒朴春植外三名に對し取調中なるが龍仁郡上東面紙谷洞居住李元化なる者に火繩銃二挺を預け天井裏に隱匿しある旨自白せしに依り搜索の爲め巡査二名出張せしめしに果して火繩銃六挺と青色の韓服一着を發見し押收せり

●安城邑の暴徒　二十二日夜半六名の暴徒韓銃を携へ安城邑東里に襲來し金菜の家に入り雇人池元伯を捕へ主人及隣家金菜の所在を問ふたるも之に答へざるを以て之を銃殺し何物をも得ず逃走せり

●商業會議所豫算可決　當日本人商業會議所四十一年度の總豫算は一萬三千五百三十七圓四十錢なるが前年度より七千四百四十八圓三十五錢の減少を來したり而して右は何れも議員間に於て些の訂正もなく可決したるを以て戶叶書記長は昨日書類を携へ認可方稟請の爲め理事廳に出頭せり

●麥酒界の大暗鬪

從來韓國に於ける麥酒界は殆んど大日本麥酒會社の獨占に委し殊に京、地方の如きは鎗屋(京城)宅(仁川)等熱心なる特約店を有せしを以て其勢頗る旺盛にて曾記の如く京仁間に於ける斯品の消費額の八分强は大日本麥酒會社の製品なりしが、昨年來本邦に於て雄飛せるキリンビールも夙に韓國に志ありて虎視眈々として機の到來するを待つの風情なりしが偶々麥酒會社今回の値上げ(既報)に遭逢するや明治屋は機逸すべからずとなし過般來激烈なる運動を試みたる結果既に仁川に於ては一鷄の本店たる本莊を味方に引入れ尙ほ某店を買收すべく交涉も略纏りたる模樣なり而して一方麥酒會社側にても之れと對抗すべく目下畫策中なるやに聞けり兎に角本年の斯界は激烈なる競爭を見るに至らん

●大阪商船の賃金値下　鐵道乘車賃値下に對抗して大坂仁川間の船賃を値下したることは既報せし所なるが同社にては京城坂神間の航路船乘客に對して便宜を計る爲京城より大坂まで八圓五十錢となし此中に京仁の汽車賃も含み居るものなりと云ふ

●模範的勸工場の設立　昨今京城居留民團役所と日本人商業會議所との間に於て韓國に於ける模範的勸工場を設立せんとの計劃を立て目下夫れに就て審議中なり

●京城夜學校の卒業式　京城教育會附屬京城夜學校に於ては一昨日午後四時より日の出町小學校に於て卒業證書授與式を擧行したり同會評議員熊谷賴太郎氏は正副會長不在に付會長に代りて卒業生に對し一々證書を授與されたり席上善隣商業學校長及び教授の祝詞等ありて終りて別室に於て茶菓の饗應ありたり因に同夜學校は今回善隣商業學校に於て引繼ぐことゝなりたり

●囚人の移送　永登浦に建設せられたる京城理事廳監獄署は四月一日より事務を開始せらるゝことは既報せしが右に付き南部警察署構內監獄に在獄中の囚人六十餘名の中五十名は昨日看守長看守付添の上永登浦新築監獄署へ移送されたり尙ほ殘留の四人十餘名は四月十五日迄に放免せらるべきものなりと云ふ

●金山書記官追吊會　既報の如く故統監府書記官金山尙志氏の追吊會は一昨日午前十時より南山本願寺別院に於て執行せられたり參列の人々は曾禰副統監、石塚總務長官代理其他統監府員熊谷民長及び民間三四の人々等數百名にて筑前琵琶の名手鈴木筑風氏は故金山書記官遺愛の琵琶にて故書記官の作になる露營の夢を彈じ一座皆な淚を忍び故金山氏の往時を追想したるなど壯嚴なる追吊式なりし

●故片淵琢氏の葬儀　片淵琢氏の葬儀は一昨日京城本願寺別院にて午後二時より執行せられ日本人會葬者百餘名にして東亞開進敎育會は從二品申泰熙會員三十餘名及び靈を慰むるため舞童二組を率ひて會葬したるが讀經に次ぎて左の弔辭あり

弔辭

片淵琢君本月二十一日漢城馬頭山大韓病院に於て逝去す君性磊落奇偉にして能く合せず不過にして終る誠に惜むべし君曾て東都に在りて青年志氣の振興を計る品川先生と志を同うし又學を副島先生の門に講じ得る處大なり數年前韓國に來りて敎育文藝の爲めに盡くす所少からず南船北馬韓國の經綸に資するあり今や志半途にして去る嗚呼悲哉朋友等茲に君の遺族に代り其柩を擁し其靈を祭る希くば享けよ

明治四十一年三月二十九日

朋友を代表して　伊東祐侃

同

維歲戊申三月廿九日東亞開進敎育會長從一品勳一等趙重應敢て片淵先生の靈に昭告す嗚呼先生素東洋有志の士を以て我韓國に遊ぶ力を韓日兩國社交の親密人文の發達に盡し乃ち本會の改良組織に丹誠するものあり本邦中外の會員幾十萬の衆きに達し學校の創起するもの亦十數ヶ所會務將に漸く擴張盛大の際に方り豈圖らんや先生と中途相失はんとは嗚呼哀い哉悼い哉然り而して本會の志士諸人既に益生の芳德高見に感化を受くるもの深し益先生の遺志を追想し以て將來の隆盛を期し先生在世未展の高志に報ひんとす庶幾くは先生之を諒して尊靈を安せよ重應偶病に在り親ら先生を祭る能はず本會總務從二品申泰熙をして本會員若干を統率會葬せしむ

大韓隆熙二年三月　日

右の弔辭終り讀經となり一同燒香をなし式を終りたるが舞童は未だ已まず非常の盛大にて趙重應氏が天候惡しきにもかゝはらず會員を會葬せしめしは感心の至りなりし

●連絡船遲着　昨朝釜山に入港すべかりし連絡船對馬丸は一昨日の暴風雨にて遲着したる爲今朝配達さるべき本邦よりの郵便物及新聞は不着なりと云ふ

●京城控訴院長着任　京城控訴院長城數馬氏は神藤書記官と共に一昨夜九時南大門着列車にて入京せり

●荒井次官の歸任　度支部次官荒井氏は昨夜南大門着列車にて歸任したり

●三浦理事官歸任　京釜沿線及び馬山、木浦、群山地方視察中なりし京城理事官三浦彌五郎氏は昨今日歸任の筈なりと

●信夫理事官上京　仁川信夫理事官は昨日民團債起債の件打合せの爲橫山民團助役と共に上京統監府に出頭して即日歸仁せり

●宮川牧師一行の出發　集中傳道として來京中なりし日本基督敎組合會長宮川經輝渡瀨牧師の一行は既報の如く昨日午後八時五十分南大門發にて歸朝の途に就かれたり同驛には基督敎會員及び其他の知己有志者等多數見送れり

●秋吉會頭の出發　京城日本人商業會議所會頭秋吉富太郎氏は關西地方遊歷の爲め約三週間の豫定を以て昨日南大門發一番列車に搭じ日本に赴きたり

●辭令　(三月廿七日附)

元山理事廳在勤　中西楠吉
任統監府技手(五級俸下賜)

●近事片々

▲排日　熱益々熾となり八道に漲らんとす其勢力却て暴徒以上也斷すべき時は來れり
▲韓民　をして斯迄横暴を逞うせしむる原因は所謂懷柔策に附上れる也是韓人の特色
▲排日　熱の急激に火の手の揚りし近因は夥多の日人官吏任命其一ならむ警戒を要す
▲現時　の統監政治を續行するに於ては八道の民草皆排日黨となり暴徒たるに至らむ
▲年々　歲々巨資を投じて排日黨を起さしめ日人を輕侮せしむ愚之に及ぶ者なし可歎
▲如斯　事實の眼前に橫はる決して等閑に附し去る勿れ我帝國臣民たる者默す可らず
▲拓殖　會社の總裁は宇佐川中將の呼聲高し或は適任ならむも伊公との關係を氣遣ふ
▲統監　政治の支配下に活動せんとせば統監政治の革新を要す不然者其豫期に違はむ
▲宋秉　畯亦拓植副總裁の候補となる甚だ不適任眞面目に之を呼ぶ者こそ迂濶千萬也
▲野田　平末路の爲相當の位置を得さすならば元の商買會社の通譯位が恰當ならむ乎
▲伊公　との關係裏面に何程あるか知らぬが全体大臣だの副總裁だのとは間違て居る
▲太皇　陛下病魔の襲はるゝ所となり副統監伊公に打電し爲に佐藤博士急行來らんと
▲九重　雲深く知る由なきも稍重態と洩れ承る讓位以來痛く軫念を煩はされし結果乎
▲斯く　御病氣に惱まされては日本觀光◯御勸も當分六ヶ敷からむ速に御回復を祈る
▲西園　寺內閣一大臣補塡に就ては伊公幷侯の內意は得たるも桂侯をば美事出拔けり
▲二大　臣補塡して西園寺內閣軍容を調へ公然前內閣派に當らむとの氣勢を發露せり
▲西園　寺內閣成敗總選擧にあり原內相の鋭意奮闘之が爲也政友會過半數を得るや否
▲獨逸　議會無禮は新聞記者のボイコットとなり宰相の重要演說之が爲半に中止せり
▲玆に　至て新聞記者の勢力も亦大なり無禮なる議會や官憲には此制裁を加るを要す

●釜山驛開始祝賀會　鐵道管理局に於ては京釜線を釜山まで延長する爲め一昨年來工事中なりしが今回全部落成し來る四月一日より同驛開始せらるゝを以て釜山居留民團に於ては四月一日午前十時三十分釜山停車場構內に於て盛大なる祝賀會を[illegible]當日は[illegible]は無かし盛況なるべし

●釜山會議所役員　釜山商業會議所に於ては役員の改選を行ひたるに左の人々當選したり尙ほ書記長は久納重吉氏なり

會頭　迫間房太郎　副會頭　五島甚吉
調查委員　大池忠助　阪田文吉
會計委員　野口弘毅　石田信一郎
審查委員　山本純一　岩崎新平

●釜山商品陳列館役員　同館の役員は會長島田歸、委員長谷川鎗太郎、同磯谷喜三郎の三氏にて幹事は久納氏兼任なり

●田口[illegible]　は別項永登浦監獄署に囚人を移送するに付昨日[illegible]に出張しなり

●獄囚死亡　仁川監獄に收容中なる韓國囚竊盜犯十五ヶ年囚は昨日病死せり

公人私人

△大島義哉(陸軍步兵中尉)　浦尾旅館へ
△相良維章(同中尉)　同
△星野金吾(陸軍少尉)　巴城館へ
△鈴木新之丞(同大尉)　同
△野田國輔(同上)　同
△アンデル(米國人安東縣領事)　同
△カデス(英國人)　同
△太田清松(憲兵大尉)　旭旅館へ
△本間巽(同中尉)　不知火旅館へ
△鈴木千代鶴(同少尉)　[illegible]旅館へ
△城數馬(京城控訴院長)　巴城館へ

●釜山驛開始祝賀會 鐵道管理局にては京釜線を釜山まで延長する爲め一昨年來工事中なりしが今回全部落成し來る四月一日より同驛開始せらるゝを以て釜山居留民團に於ては四月一日午前十時三十分釜山停車場構內に於て盛大なる祝賀會を催す筈にて數日來準備中なれば當日は嘸かし盛況なるべし

●釜山會議所役員 釜山商業會議所に於ては役員の改撰を行ひたるに左の人々當撰したり尙ほ書記長は久納重吉氏なり
會頭 迫間房太郎　副會頭 五島甚吉
調查委員 大池忠助　阪田文吉
會計委員 野口弘毅　石田信一郎
審查委員 山本純一　岩崎新平

●釜山商品陳列館役員 同館の役員は會長島田歸、委員長谷川鑑太郎、同磯谷喜三郎の三氏にて幹事は久納氏兼任なり

●田口典獄出張 理事典獄田口和三男氏は別項永登浦監獄署に囚人を移送するに付昨日同監獄署に出張したり

●獄囚死亡 仁川監獄に收容中なる韓國囚窃盗犯十五ヶ年囚は昨日病死せり

公人私人
△大島鍛哉（陸軍步兵中尉）浦尾旅館へ
△相良維章（同中尉）同
△星野金吾（陸軍少尉）巴城館へ
△鈴木新之丞（同大尉）同
△野田國輔（同上）同
△アンチル（米國人安東縣領事）同
△カデス（英國人）同
△太田満松（憲兵大尉）旭旅館へ
△本間巽（同中尉）不知火旅館へ
△鈴木千代■（同少尉）原金旅館へ
△城數馬（京城控訴院長）巴城館へ

花の根ざし（十二）

作談　栗嶽庵主人

横澤老人と静子とは、海上も恙なく神戸に上陸し、行途の急がるゝまゝに、宿屋にもつかず、直に三ノ宮の停車場より汽車に乘り、大武停車場で武豐線にのり替へ、其夕無事に着したのである、横澤老人は進藤母子には初對面であるため静子によりて紹介され昔氣質の叮寧に挨拶するのである、静子はこの挨拶する間も、もどかしく感じて次郎の病床を直に訪ずれた、

横澤老人は進藤母子と挨拶がすむや、静子に附添ふた理由や、静子の病氣の一時重態であつたことを語るのである、

『妻君のご病氣も一時は隨分重くて、船で十二時間餘もかゝる仁川から醫者を呼びましてなア、診察して貰つたのです、花崎さんは居ないし、どうしようと思つて婆さんとたゞ〳〵心配したのみで、夫れでも段々快くなつて、もうこれなら大丈夫だと喜んでると、彼の電報でしよう、どうして斯う不幸の續くものだらうと、妻君と、婆さんと、三人で顔見合して途方にくれたのです、それに妻君は病後でまだ衰弱して居るし、さりとて出發せぬわけにはゆかず、そこで私が付て來たわけでムいます、』と急ぎ込んで語れば、重次は慇懃に、

『豫て花崎から貴君の事は能く聞て居りましたが、眞に一方ならぬ御親切でかげながら、遥に御厚意を謝して居りました、またこの度は静の身を御氣遣ひくださいまして遥る〳〵こゝまで御同導くだすつて、今更何とも彼とも御禮の申樣もムいません、私は花崎になり替て深く御禮を申上ます、どうぞ此行末も彼等夫婦をお見捨なく……』とまだ云ひ終らぬに、母親は更に云ひたして、

『横澤さま、重次も申上ます通り、何と御禮を申てよいやらわかりませぬ、静の手紙にも眞身の親も及ばぬ、ご親切の御介抱を受けたとのこと、近い所ならすぐにも出掛けてれ目に懸り、御禮を申たいと存じましたが、何を申すも外國のことで只思ふばかりで、はからずもお目に懸ることができまして、眞に難有ひことでムります、花崎も始終さう申て居りました、静子は何にも心配なことはない、貴君方御夫婦が眞の親よりも可愛がつてくださるから、」と尙も受繼けんとする、横澤の氣にかゝるのは病人である、それを早く見ばやと、

「して花崎さんの御樣子は、」

重次は直に引取て、

『一時は醫者も見放したが、一昨日より良い方に向て、もう大丈夫だとのことで、一寸安心になりました、』

●一昨日の暴風雨 二十八日夕刻暴風雨警報傳り天候何となく穩かならざりしも夜に入りて二回の驟雨ありしも格別の大降に至らずして止み翌朝となるや西南の風吹き荒み雲脚飛ぶが如く愈よ低氣壓の襲來近きしを示すが如かりしも時々小雨降るかと思へば又た日光を漏らすなど變幻極りなかりしが天候は刻一刻に險惡を現はし正午頃に至るや風は益々強くなり砂塵を吹き上る狀の凄き殆んど眼を開るを得ず糞尿交りの砂塵は目といはず口鼻といはず飛び込み行人の困難一方ならざりしが午後二時過ぎに至り大粒の雨點々と降り出るや驟雨沛然として甚く雷さへ鳴はためき電光凄じく輝きて愈よ暴風となり瓦を飛ばし藁屋根を吹きめくる樣の物凄さなんざいふばかりなく一時は殆んど行人の跡を絕つに至り斯くて漸く夜に入りて風も小止みとなり雨も九時頃には全く歇み昨朝に至りては拭ふが如き快晴となり名殘の西風吹頻のみなりし此暴風の爲め屋根瓦及び屋根藁を吹きめくられし家屋の損害及其他土塀の崩壞多數なりし就中理事廳の旗竿は此暴風の爲め吹倒され爲めに電話線三十條を切斷し漸く電燈の幹線二條の爲め支へられたる爲め本町一丁目の道路に倒るゝに至らざりしより怪我人を出さゞりしは幸ひなりし此他龍山方面にも多少の損害を蒙りたるもの少なからざりし今回の如き激烈なる暴風は京城には稀に見る所なりと云ふ

●京城南部の風害 一昨二十九日の颶風は別項記載の如く當地には稀に見る所にして其の時間は僅少なりしも被害は甚だ多く本町通りにて五十八銀行の横向ひに建築中なりし野田齒科醫の建物は棟上げを爲せしまゝのものなりしが吹き倒されて用材の大部分は廢物となり新町稻荷社境內の松樹十有六本中間より折れて飛び同所巡查派出所前に架設せる電燈線並に電話線切斷し其他屋根葺物の吹き散らされたるもの墻塀の吹き倒されたるもの屈指に遑あらず本社にても數枚のガラス戸を毀損したり

●銅峴管內の風害 一昨二十九日暴風雨のため同管內に於ける罹災害件數左の如し
一、官有山林樹木倒（松樹百五十本此の見積額二百二十五圓）
一、草家屋根破損（韓家十四軒此の見積額四十二圓）
一、韓家裏門倒破（一ヶ所此の見積額五圓）
其の他草家屋根小破損七十個所

●仁川の暴風被害 一昨日は又々近來に稀なる暴風なりしが仁川港にて船舶の損害を受けたるものは比較的尠なく韓船大破三艘損害積荷共九百圓同小破四五艘、家屋小破四五十軒なりしさ尙花町一丁目四番地關屋發次郎（三十）は同日午後五時頃中村金太郎所有の帆船が流失せんとするを繫留せんとして大波に漂へる本船に突當てられ右肋骨を打ち人事不省となれるが救助されて松本醫師の治療を受けたるが經過良好にして生命には別條なかるべしといふ

●韓國に於る浪人の標本 浪人といへば尾羽打ち枯らして人の情を請ふものゝやうに思はるゝが韓國三界に來て浪人たるほどの者は是れと大に趣きを異にして身に美服を纏ひ口に美酒佳肴を嘗め馬鹿が汗油で金を儲けるのは已樣達を養ふためなんどゝ太平樂を唸る一種特別の社會を爲し居るものにして是れも其の一人たる高知市鐵砲町生れの藤昂吉（二十七）といへるは去る一月十七日より明治町一丁目の金澤弦弛方に一ヶ月二十五圓の約定にて下宿したるが座敷を穢いことの牛馬の飼料のやうな物は喰はれぬのと横着を吐かすものゝ宿料は延滯勝となり嚴重の督促を受けて漸つとのことで三十圓宛二回支拂ひたるものゝ來客の賄料や酒肴料で百餘圓もあれば尙ほも嚴重に催促する內去る十六日金策に行くとて出で去りしまゝ歸り來らず其後旭町一丁目の興信所に居ることが分り尋ね行つて如何に始末すべきかと問ふと何れ金は拂つてやるのだから謹んで待つて居れといひ取散らしてある蒲團や書籍を片付けて吳れよといへば座敷は借つた間は自分の物だ餘計な世話を燒くな己れに相談なくして其の座敷を他に使用でもしたなれば承知はせぬと逆捻を喰はし金澤方にても大に持て餘し警察署へ說諭を願ひ出で流石の浪人も桐原署長の大喝に怖れ入つて近々還付けすることを誓つて引退つたり

●電車と人力車との衝突 去る二十八日午後十一時頃南大門通三丁目の本町入角に於て本町一丁目の別府組の車夫渡邊源太郎が龍山の小田時孝を乘せて踏切を越へんとする一刹那土砂を運べる電車が突進し來りて源太郎の曳ける人力車と衝突し乘客は轉倒し人力車は心棒を曲めたるが幸に怪我人もなかりしことゝて電氣會社より人力車の損害額を償ふことゝなりて事濟みとなれり

●阿片を仰いで自殺す 南署樂善坊懸井洞五十二統三戶酒商金漢奎（五十）は平素より膽の小さき男にて始終詰らぬ事に氣を採む性質なるが去る二十八日は朝より氣分勝れずと言ひて何れへか遊びに出で夕刻歸り來りしが其の日に限りて餘り平素よと嗜まぬ酒を多量に飲み大分酩酊の樣子なるより女房は不審に思ひながらも別に氣に留めず早く醉の醒むるやうと內房の一室に寢かしめたるに却々目の醒むる模樣もなく彼是十一時過ぎになりたるより女房は內房に至り見しに這は如何に夫は顔色蒼白となりて五体堅く冷ね早や縡切れ居るにぞ打ち驚きて早速其の旨警察署に訴へ出でしかば警官醫師出張取調べ檢視を遂げし所正に阿片を仰ぎたるものに相違なく屍体は妻に引渡せり原因は近頃打續く不景氣に加へて或る事業に手を出して痛く失敗し爲めに家財を[illegible]保に入れ其の上少なからぬ負債を生じ所詮將來身を起すべき望なきより斯くは自殺を遂げしものなるべし

●好きな男に逢はねば歸らぬ 岡山縣御調郡圓城村の者にて當地に來り居れる建部ツチの長女靜子（二十）といへるが去る二十四日無斷家出したるまゝ更らに消息なきより母なるツチは夜を日に繼いで其の行衞を捜索中去る二十八日も例の如く心當りを尋ね盡くせど更らに手掛りもなきより南大門通りを思案に暮れてとぼ〳〵と宿所へ歸る途次圖らずも靜子に出遇ひたるよりマア〳〵れ前は如何したのだ能く〳〵此の母に心配させ居るぞサア一行に歸らうと引立て往んとすると靜子は袖打ち拂ひて妾には立派な好きさんが出來ましたよ女は三界に家なくひては子に從ふとか聞き侍る今までは內に在つては親に從ひ嫁しては夫に從ひ老居たから母さんの言はれる通りになつて居りましたが今では好さんの言はるゝこそに從はねばなりませんと憚りながら親の威光が何時までも通用すると思つちや間違ひますよと飛んだ女大學を振り廻はし是非好きさんに逢ふて其の許しを受けねば歸らぬと駄々を捏るに母も持て餘し警察署へ連れ來りて說諭を求めたるが好さんと言はるゝ艶男は東京府の者にて目下永樂町一丁目の木下方に寄留する元陸軍看護手高雄直次とかいへる果報者にて女たらしに妙を得たる辣腕家なりと

●紙入の紛失（在中の金は主人の物）南大門外大東運輸會社內仁川井田出張店員福田喜代二は去る廿九日大和町二丁目の横山正夫を伴ひ本町二丁目の江戶川に至り倶に飲酒し金七十三錢を支拂ひ午後五時頃に同家を去つて歸宅して見ると洋服の上衣の內囊に入れ置きしと思へる紙入が紛失し此の中には仁川本店が當地に於ける通關立替金を取集めたる金二百二十九圓と橋口助作の振出したる十七圓餘の小切手が入れありしとて南部警察署へ屆出たるがこれが果して事實とすれば迂濶千萬のことといふべし

●持つて居らぬ金は出されぬ 東京府の者にて旭町一丁目の興信所員なる須基浩は去る二十四日の夜韓人を伴ふて新町の高島屋に登り飲みつ謡ひつ大騷ぎをなして韓人だけは先きに歸らしぬいざ勘定となつて十一圓二十五錢の處へ一圓紙幣四枚を投げ出し殘りは明日持つて來る何貸さぬと持つて居らぬものは出されぬ勝手にしくされと啖火を切つたが世の中はそんな事で通用せず警察署へ連れ出されて目玉を喰はされた上で殘金を支拂ひ事濟みとなれり

●中樞院主事の羅難 去る二十八日午後十一時頃四名の韓人何れも手に〳〵短刀を携へ南署惠民洞十五統四戶中樞院主事甲永權（五十）方へ押し入り多額の物品を强奪して悠々引揚げたるが當時甲は賊の後難を懼れ秘密に附し居りしを銅峴警察署にて探知し早速之が搜索に着手したり次に賊は其の際中樞院の使者なりと僞り家人の門を開きしを機に闖入せしものなりといふ

●醉ふて仲居をぶん毆る 香川縣の者にて日の出町高見理髮屋の雇人大平傳吉（二十）は去る二十九日夜永樂町一丁目の料理屋福田方に至り醉狂して仲居の上田ミツなる者を踏む蹴る毆る果は髮を攫んで引ずり廻はすなどの亂暴に及びしが醉中の故を以て仲居リンに對し詫を言つて事濟みとなる

●ホウロクの料理屋開業 翡翠樓に仲居を勤め統監公を始め統監府のれ役人衆より「ホウロク〳〵」とてゑらい御贔負に預り統監公歸朝の節はれ供まで仰せ付かりて鳥が鳴く吾妻の名所を殘る隈なく見物し去る頃歸韓したるたかつは此度或る後楯を得て奬忠壇附近なる四軒にある進氏の別莊を借り受け來る四月三日の神武天皇祭をトし寶六庵と銘打て料理屋を開業する由なるが態々斯る僻遠の場所に於て開業するは翡翠樓が火災以來客室不足の爲め隱れん坊の場所なきを幸ひ兼てれ役人衆の贔負を受けたるを利用して大に翡翠花月の向ふを張らんとの眞意より思付きたるものならん因みにホウロクとは由來因緣を聞くにれかつの面がホウロク鍋に目鼻口を畫いた樣だからホウロクとの綽名を畏くも統監府のれ役人衆より賜はりたるものにてれかつも之を有りがたく頂戴して其の屋號にしたるものなるが統監府のれ役人仲間には本名を呼ぶものはなくホウロクで通用し居れるも我々人民共には知られぬ名なりと或る人の話を書の通り

●新炭騰貴 近日來新炭商等の所謂暴徒が新炭商を脅迫して自由に往來せしめざるを名とし新炭價を約二倍に引揚げたるを以て貧困者の困難少からずと云ふ

●仁川韓家の出火 仁川龍岡町交番の前なる韓國大東通運會社より一昨日午前一時五十分出火し全燒一戶にて消火したり

●別府溫泉で縊死 一昨朝仁川敷島裏別府溫泉に宿泊したる年齡三十四五の男は二階四疊半の客室にて丸窓の竹格子に細帶を吊して臥したるまゝ縊死を遂げたる事を翌朝發見し其筋に訴へ出でたるを以て早速檢死をなしたるが所有品は手帳一冊と宿屋に金十圓を預け置きたるものゝみなりしと

本店 東京市日本橋區兜町
內地支店及出張所 大阪、京都、橫濱、神戶、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町
韓國支店及出張所 仁川、釜山、元山、鎭南浦、木浦、群山、平壤、大邱、開城、城津、咸興、馬山、鏡城
淸國出張所 安東縣

株式會社 第一銀行京城支店

電話番號 營業部 一一番 當直用 同 一番 營業部 三三番 國庫部 六一番 用度係 六二番 分拆所 六三番

總支配人 市原盛宏
副支配人國庫部長 三島太郎
副支配人國査部長 竹山純平
副支配人營業部長 木村雄次

開店御披露

御料理

本月二十三日ヨリ三好町歌舞伎座前ニ於テ開業仕候間續々御光來被下度奉願候

京城三好町 筑紫亭

▲電車割引券發賣
▲電車割引券改正
▲龍山線區域改正
▲電車發着時間改正

四日一日より鐘路本社及龍山電車停車場にて發賣す 六十枚綴一册に付金二圓八十五錢何れの區域にも使用し得べし
四月一日以後は南大門驛前を境界點とし同點より鐘路及龍山迄を各一區域とす
四月一日以降は夏期時間表に依り電車を運轉す

韓國電氣會社

梅毒にて苦む御方は急ぎ一劑試み給へ速に全治す藥効なき時は返金ず

百治 濕血丸（しつけつがん） 價一圓

よこね、かんそう、ほねうづき、ようばい、そう、りん病、子宮病、じしつ一切、がんがさ、るいれき、たいどく等に特効あり

右藥は米國醫科大學教授博士（マンキリン氏）の明治二十五年十月新發明せられし良劑にして輕きは半廻り重き病は一二週用ゆれば速に全治す此藥は我日本にありふれたる梅毒藥とは異なり服用して決して口中いたまず飮食物に禁止なし就業勤務に妨害なし身体衰弱せず頭髮ぬけず養生中他人は勿論家內のものにも知れる世話なく全治する事保證す但一週間分金一圓

▲賣捌き御望の方は御來車あれ

調劑本店 大阪 松本快活堂
韓國一手販賣 京城新町 松本儀祐
▲到る處の賣藥店にて販賣仕候

木炭着荷

京城南大門通三丁目 英兄弟商會
電話九四八番

一層業務を擴張し敏腕の事務員數名を增聘し迅速且つ懇切に左の事務を取扱ふ

一民刑訴訟の鑑定及諸般代書事務
一貸金賣掛金等に關する債權取立事務
一鑛山及土地の測量製圖並に出願手續
一會社組合銀行等の顧問

明治法律學校出身
京城本町二丁目 增本好三郎事務所
（電話取次六二四番）

珍店江戶子流
東京下駄
仁川宮町二丁目 成田屋
電話一八二

會席御料理 並に仕出し
京城本町一丁目 曙亭

拾有八年の實驗 最新學術の應用

齒科醫 勳六等 檜崎東陽
京城南山町三丁目（日本人俱樂部向）

和洋御料理 並に かきかまめし すし
外に洋食一皿ニ付金十五錢

京城本町五丁目 釘本商店前入
あづまや

臨時移轉廣告

今般改築中當分本町四丁目淵上商店內及ひ第一銀行橫手の二ケ所に於て臨時營業仕候間不相變御引立の程伏て奉懇願候 以上

內外藥品 有名賣藥 卸小賣商
京城本町四丁目 近藤貴生堂藥房
（電話一三八番）

●大勉強廣告●

○うなぎ蒲燒 ○會席御料理
○うなどん ○親子どんぶり

本町座前大和湯向 きく紋
電話九百五十四番

極上 材木、竹類、𤏐灰

座敷廻り諸材料特に注意取揃あり

右本年は多額輸入可仕特別廉價販賣仕候間多少に不拘御用命願上候

小森材木部
京城旭町一丁目 電話七四四番 本宅四〇五番

節句用 雛市松人形 其の他種々

荷着大勉强

京城本町四丁目 ㊉ 河村百福號
電話七四六番

同じ金を出しながら一世紀後れの洋服を着給ふ勿れ

英京龍動より直輸入春洋服地種々右弊店特約品今般丹波丸便を以て輸着相成候處品質精良にして柄合は本年の最新流行普通東洋向と稱する內地廻りの雜物の比にあらず然るに直輸入の故を以て內地消費税を免れ案外の低價に引取り候を幸ひ此際一層廉價に調製可仕候間續々御用向奉願候

諸官衙御用達 洋服商 丁子屋支店
京城南大門通三丁目 電話二十三番

直輸入極上等無綿 英子ール新荷着
京城本町二丁目 丁子屋分店
電話二百二十番

各種銘茶販賣所
專業 富士の里茶舖
京城本町五丁目

會席御料理 並ニ仕出し
京城本町九丁目 小松亭

移轉廣告

今般肩書の處に移轉仕り候也
京城永樂町一丁目 衛成病院筋向ふ入り上り詰
產婆 伊集院兼子

業務擴張廣告

本社今般業務を一層擴張致し內國物產は勿論外國諸物貨を直輸入し諸官廳、學校及び其他一般に至極廉價を以て迅速確實を旨とし御用命に應可申候に付何卒一層御引立の程只管奉懇願候 敬白

宮內府用達 東洋合資會社
京城南部銅峴三十三統六戶
（電話一四四番）

開店御披露

和洋會席御料理 並に仕出し

右今般開店仕り大勉强且親切丁寧を旨と致候間賑々敷御光來の程奉願候

京城竹園町一丁目一番地 三遊樓

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候

資本金三百万圓

本店 大阪市西區北堀江通五丁目
支店 釜山 仁川 平壤 鎭南浦 安東縣

株式會社 第五十八銀行京城支店
（電話五八番）

為替取組先
東京 北海道 山陽道 南海道 山陰道 東海道 韓國 西海道 淸國 內陸海道

二十七ケ所 十三ケ所 七十五ケ所 二十三ケ所 五十ケ所 二十八ケ所 十ケ所 三十三ケ所 九ケ所 一ケ所

營業科目

活版活字鑄造 石版銅版 木版彫刻 コロタイプ版 寫眞版 謄寫版 製本裝釘

今般日韓圖書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ左記ノ處ニ新築落成仕候間ノ通營業致候間倍舊御愛顧之程奉願上候也

日韓印刷株式會社
本社 京城明治町三丁目 電話（三二三番）
東京出張所 東京京橋區南鍋町一ノ十 電話新橋（三九六二番）

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金 參百萬圓
積立及繰越金 八拾萬圓

株式會社 十八銀行京城支店
京城南大門通（電話四二〇）

本店 長崎市築町
支店出張所 京城、仁川、木浦、群山、元山、釜山、馬山、全州、羅州
日本 大阪、熊本、佐世保、嚴原、五島、壹岐

貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候（利息日步壹錢四厘）

其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり

長崎貯蓄銀行代理店
（十八銀行京城支店）

本店 仁川理事廳通（電話三三一番）
原金旅館
支店 京城南山町（電話一〇七番）

每月廿日 一割引 八
名物 二頭八饅 一名一口饅頭 一錢に四つ
御菓子製造大勉强

京城本町六丁目 二八堂

日本澤庵 味噌醬油製造 乾物荒物鑵詰 銘茶食料雜貨
漬物問屋 京城本町五丁目 大上商店（電話二五一番）

私儀去月來平壤及安東縣地方へ旅行中の處昨夜歸京致候今般朝鮮タイムス京城支社を辭し獨立事業を經營仕る積りに御座候間猶從前の通り御引立の程伏して奉願候
三月廿四日 奥原常槌

日本法律學士 岩本英夫法律事務所
京城本町一丁目八十四番戶（電話六四二番）
仁川港新町一丁目九十七番地（電話五二七番）

日本郵船株式會社 仁川瀛船出帆廣告
貨物及船客取扱店
電話十番

仁川海岸通 郡回漕會 電話三九番
京城南大門通 巴商店 電話三〇六番

●釜山長崎門司神戶行 山東丸 四月十二日 後三時出
●群山、木浦、釜山、門司、神戶、大阪行 第一オハヨ號 四月十一日 後三時出
釧路丸 三月 日 後三時出
●大連、大沽、牛莊行 高砂丸 四月九日 後一時出
山東丸 三月卅一日 前十時出
●大連、大沽、牛莊行 酒田丸 四月廿三日 後一時出
●鎭南浦行 第一オハヨー號 四月八日 後三時出
●釜山出帆、元山行 弘前丸 四月一日

注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄御送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事